

緑内障に対する後眼部画像診断に関する研究

1. 研究の対象

過去 10 年間にもしくは承認後 5 年間に、緑内障がある、ないしはその疑いがあるが当科を受診した、あるいは受診し、検査を受けた（受ける）症例。

2. 研究目的・方法

緑内障がある、ないしはその疑いがあるが当科を受診した、あるいは受診する症例に対して、外来診療において非侵襲的、非接触の後眼部画像診断検査によって得られたデータを、後ろ向き、あるいは前向きに解析し、前眼部疾患の鑑別診断、重症度評価、および治療効果評価を目的に研究を行う。

いずれの検査機器も非接触非侵襲であり、検査手順はおおむね同様である。以下、当科において日常行っている方法に基づいて検査を行う。

1. 被検者を検査装置の測定位置に座らせ、被検者の氏名、生年月日、診察券番号を当該装置のデータベースに登録する。
2. 被検者の顎を測定位置の顎台にのせる。外部からの固定は行わない。
3. 装置内部の指標を固視するように促す。
4. 当該装置で被検眼を測定する。被検眼への接触はない。
5. 再現性を高めるため、1 眼あたり 3 回程度の測定を行い、検査を終了する。
6. 光干渉断層計画像の一部は、匿名化した上で機器生産元のトプコン社で解析する。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、治療歴、年齢、性別、既往歴、全身疾患、家族歴、視野検査結果、後眼部画像診断（光干渉断層計、眼軸長測定、視神経乳頭形状解析、眼底写真）検査結果 等

4. お問い合わせ先

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

大阪大学大学院医学系研究科 眼科学講座 三木篤也（研究責任者）

06-6879-3456